

## 2 調査の概要

ここでは、本事業の主たる調査である方言談話収集調査と方言に関わる意識調査の概要を述べる。

### 2-1 方言談話収集調査の概要

方言談話収集調査を行った時期の順に、調査地点、事前調査打合せ、調査年月日と調査内容、話者、調査員等を示す。なお、本事業の事前準備として、以下に示す打合せ・調査等に先立って、7月11・25日に茨城県教育庁文化課において調査（計画段階のものに関して）の概要説明、協力依頼、等を行った。（本節末の「方言談話収集調査地点」（地図）参照）

#### （1）日立市

調査地点：日立市宮田町・本宮町・東町

事前調査打合せ：平成24（2012）年8月16日、日立市教育委員会郷土博物館

調査年月日と調査内容：平成24（2012）年8月29～31日、談話収録・方言調査

話者：男性2名、女性1名

調査員等：佐々木冠、杉本妙子、佐藤高司および教育委員会職員（郷土博物館勤務）

#### （2）神栖市(旧神栖)

調査地点：神栖市奥野谷

事前調査打合せ：平成24（2012）年8月20日、神栖市教育委員会文化スポーツ課

調査年月日と調査内容：平成24（2012）年9月6～7日、談話収録・方言調査

話者：男性3名

調査員等：杉本妙子

#### （3）神栖市波崎

調査地点：神栖市波崎

事前調査打合せ：平成24（2012）年8月20日、神栖市教育委員会文化スポーツ課

調査年月日と調査内容：平成24（2012）年9月11～13日、談話収録・方言調査

話者：女性3名、男性1名（補助的話者として）

調査員等：佐々木冠、杉本妙子

#### （4）水戸市

調査地点：水戸市下国井

事前調査打合せ：平成24（2012）年7月30日、水戸市教育委員会文化課 \*本事業の事前準備として実施

調査年月日と調査内容：平成24（2012）年9月25～26日、談話収録・方言調査

話者：男性1名、女性1名

調査員等：杉本妙子

#### （5）高萩市

調査地点：高萩市高戸

事前調査打合せ：平成24（2012）年8月16日、高萩市教育委員会生涯学習課

調査年月日と調査内容：平成24（2012）年9月27・29日、談話収録・方言調査

話者：女性2名、男性1名（補助的話者として）

調査員等：佐々木冠、杉本妙子、高萩市教育委員会生涯学習課(27日のみ)

(6) 大洗町

調査地点：東茨城郡大洗町

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 8 月 15 日・9 月 28 日

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 10 月 22～23 日、談話収録・方言調査

話者：女性 3 名

調査員等：新井小枝子、杉本妙子

(7) 北茨城市 (その 1)

調査地点：北茨城市磯原

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 10 月 20 日、予備的調査として談話収録および方言に関わる意識調査

話者：男性 1 名

調査員等：杉本妙子

(事前調査打合せは電話連絡で行ったので省略)

(8) 北茨城市 (その 2)

調査地点：北茨城市平潟

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 10 月 20 日、北茨城市の民生委員宅

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 11 月 9 日、予備的調査として談話収録・方言調査

話者：男性 1 名

調査員等：杉本妙子

(9) 北茨城市 (その 3)

調査地点：北茨城市大津町

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 10 月 20 日、北茨城市の民生委員宅

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 11 月 13 日午前、予備的調査として談話収録

話者：男性 2 名、女性 2 名

調査員等：杉本妙子

(10) 北茨城市 (その 4)

調査地点：北茨城市大津町

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 8 月 8 日、北茨城市教育委員会生涯学習課

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 11 月 13 日午後、談話収録

話者：女性 4 名

調査員等：杉本妙子、北茨城市教育委員会生涯学習課職員 2 名

(11) 鹿嶋市

調査地点：鹿嶋市長栖

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 8 月 20 日、鹿嶋市教育委員会教育総務課

調査年月日と調査内容：平成 24 (2012) 年 12 月 29 日、予備的調査として談話収録

話者：龍蔵院の檀徒の方々

調査員等：杉本妙子、鹿嶋市教育委員会教育総務課職員

## 2-2 方言に関する意識調査の概要

方言に関する意識調査として自記式調査で行った 2 調査と、インタビュー形式で行った 2 調査について、調査種別に、事前調査打合せ、調査対象、調査票の配布と回収、調査内容等を示す。なお、意識調査に用いた調査票作成に関しては、小林隆氏（東北大学）・中西太郎氏（同前）、半沢康氏・中川祐治氏（福島大学）等の連携する事業担当者と共に電

子メールを利用して事前打合せを行うとともに、助言を得た。

下記の意識調査結果の詳細については、「第三部」で述べる。

#### (1) つくば市在住の避難者対象の自記式意識調査

事前調査打合せ：平成 24 (2012) 年 10 月 29 日、つくば市役所会議室

調査対象と回答者：調査票回収数（調査票を送付した方に同じ）つくば市在住の東日本大震災による被災者 433 名。433 名は調査時現在における中学生以上の避難者全数であり、このうち宛先不明で戻ってきたものが 3 あったので、調査対象者の手元に届いた送付数は 430。回答者（調査票の返送者）は、調査票回収数 186（送付数 430 の 43.3%）に同じ。回答 184 のうち有効回答数 178、内訳：男性 74、女性 94、80 代以上 20、70 代 34、60 代 57、50 代 20、40 代 21、30 代 13、20 代 9、10 代。

調査票の配布と回収：つくば市総務部総務課の協力により平成 24 (2012) 年 12 月 17 日郵送による調査票の配布、同 12 月～平成 25 (2013) 年 2 月末までに郵送による回収。回収数と回答者については、上記のとおり。

調査内容：方言の使用状況、方言の問題や効用、文化としての方言保存・継承や方言への愛着・評価、自由記述

#### (2) 支援者対象の自記式意識調査

事前打合せ：調査票作成については上述のとおり。その他の事前打合せはない。

調査対象と回答数：茨城大学・筑波大学・筑波学院大学の学生・大学院生で、被災地・被災者に対するボランティア経験者 39 名、その他のボランティア経験者 5 名の計 44 名。回答数は調査対象に同じ。

実施時期と方法：2012 年 11～12 月に直接または調査協力者経由で配布、同 11 月～2013 年 2 月上旬までに配布と同様に回収した。

調査内容：支援活動内容とその時のコミュニケーション状況、支援と方言の問題、方言の問題と今後の活動、方言に関するこれまでの取り組みについて（評価）、文化としての方言保存・継承や方言の評価、自由記述

#### (3) インタビュー形式による調査

##### ①北茨城市大津小学校における震災直後の炊き出し支援

調査地点：北茨城市情報提供者宅

調査年月日：平成 24 (2012) 年 12 月 22 日

調査内容：支援の内容、支援時における方言に関する意識調査

情報提供者：元大津小学校教諭

調査員等：杉本妙子

##### ②国民宿舎鶴の岬における震災時と直後の支援

調査地点：日立市十王町伊師の国民宿舎鶴の岬

調査年月日：平成 24 (2012) 年 11 月 9 日

調査内容：支援の内容、支援時における方言に関する意識調査

情報提供者：国民宿舎鶴の岬職員

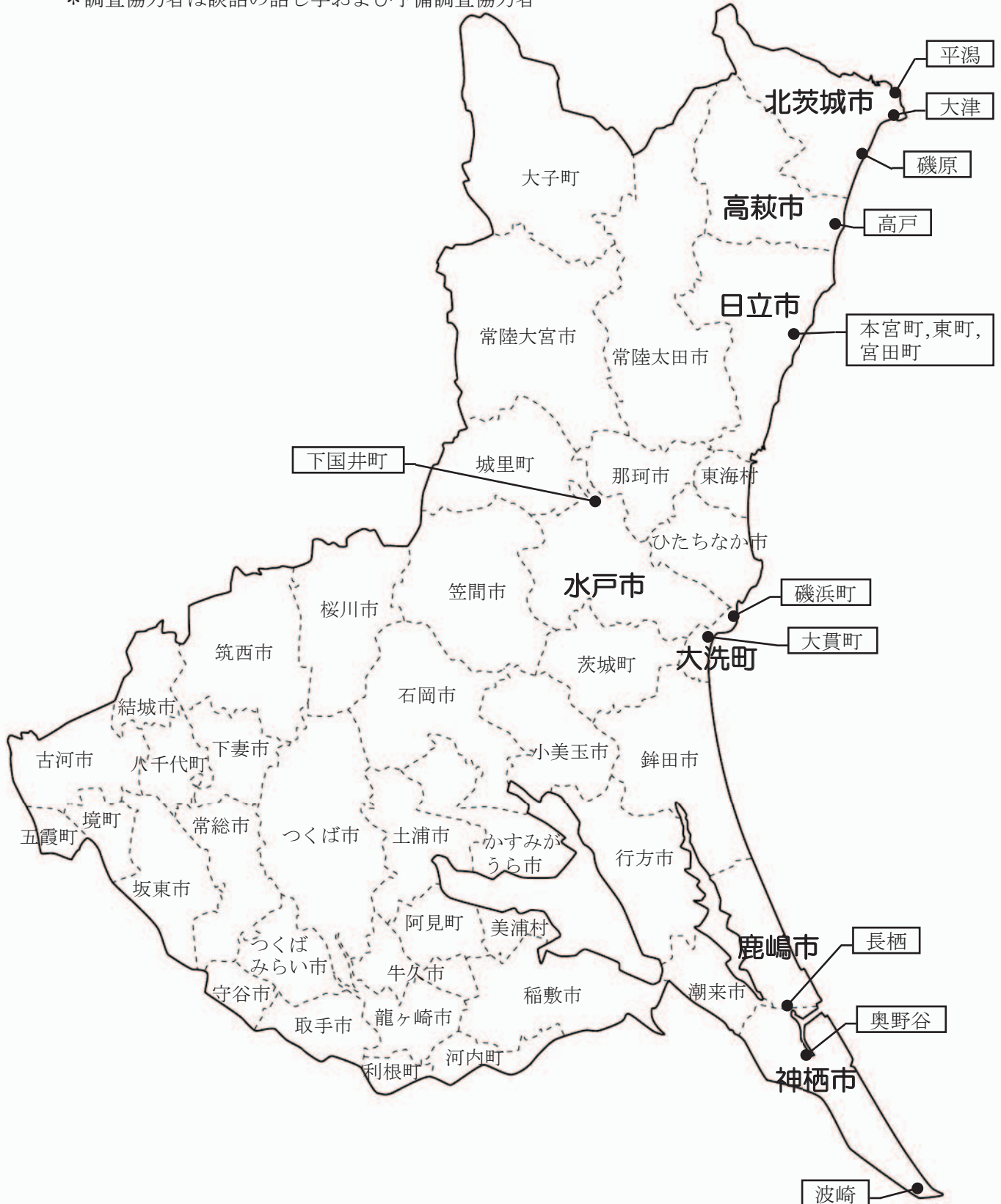
調査員等：杉本妙子

同席者：男性 1 名 \*同席者は情報提供者の紹介者

## 方言談話収集調査地点

\* 地点名（町名）は調査場所または調査協力者の現住所

\* 調査協力者は談話の話し手および予備調査協力者



茨城県の白地図は「日本地図のフリーイラスト集」より

<http://map.finemakeyuri.com/img/map/172.png>